



待ち遠しい日



国籍	種別	フィリピン
職	種別	介護
実習実施者		医療法人二之沢会
監理団体		公益社団法人アジア産業技術交流協会

ヒラド マルジョリィ マラピタン
HILADO MARJORIE MALAPITAN

「きっと一年後には日本でパパとママに会えるだろう。」そんな気持ちで母国を出発してから一年が経過しました。私が来日して一、二週間が経過した頃コロナ禍で世界の国々は国境を閉鎖してしまいました。もう一年経ってもまだ家族に会えなくて悲しいです。しかし、この危機で私より切ない気持ちになったのは私が働いている施設での利用者様だと思います。

拡大防止の為にご家族の面会は禁止となりました。突然利用者様はご家族に会えなくなり、驚いたと思います。気持ちが辛くなる場面はたくさん目に入りました。「帰りたい。息子はどこだ。迎えに来てくれるといいな。」とうろろしながら、通りかかる人に聞いているAさんの姿でした。「元気？ちゃんと食べてね」涙と一緒に苦しい気持ちが流れたBさんも見かけました。「もう死にたい。それで、この場所を出ることが出来て家族に会えるんでしょう？」と落ち込んでいるCさんに言われました。その不安そうな顔と寂しい声を聞いた時、私の心を碎かれる思いでした。

この状況の対応策として、施設で5分のみと制限されているオンライン面会が可能になりま

した。もっとも、画面越しで直接家族に会える訳では無いので、心が中々満たされないだろうと思いました。毎日同じ場所で暮らし、外出も出来ず、家族さえ会えないのはとても心細いのではないのでしょうか。

それゆえ、私は利用者様の家族ではないけれど、海を挟んだ私の家族より利用者様との時間が長いので、毎日笑顔を与えてあげたいと思いました。そこで、思いついたのが2月の節分の行事の豆まきでした。赤いカツラをつけ、赤いバットを振って鬼に変装しました。「鬼は外！」「福は内！」と紙を丸めてできた豆を鬼の姿の私に利用者様は一生懸命投げながら楽しんでくれました。一生懸命考えたレクリエーションで素敵な笑顔を見せてくれて「なんて素敵な時間だな」と私の心も幸せで一杯となりました。

これを書いている今も、母が母国で手術を受けたばかりです。大変な時に大事にしている人の側に居られなくて心配です。だからこそ、豆まきのように「コロナは外」「幸せは内」という日を楽しみにしています。それは利用者様のみならず、世界中の人達が離れ離れになった最愛の人々に会える日です。両親も日本の美しい景色を見に来られる日です。その日が来るまで周囲の利用者様に笑顔を与え続け、日々を過ごして行こうと思います。日本の諺にもある「七転び八起き」を胸に抱き、悲しみに落ちる事のないようコロナ禍を退治し、乗り越えましょう！